

# たより

## 『美紗の会』 ニユース

第34号

平成十二年四月十五日

発行者  
「美紗の会」  
03-3441-2726  
編集責任者  
大久保 朋 子

### 第19回美紗の会を終えて

傅田京子

江戸幕末期の端唄・新内、明治中期の小唄。その小唄の歴史の始めは、日本橋芳町や新橋、浅草の芸者達が作ったニュー・ポップスでした。

その特長、小気味の良さが広く浸透していったのでしょ、大正期には実に二〇〇〇曲にものぼりました。そんな時代の唄を取り混ぜて、二度目の龍名館龍の間でのおひきぞめはありました。新入門の山中さんのデヴェューや、ひたすらな加藤さんの名調子振りが冴え渡って、いつもながらにゆるゆるとし

た時の中を進行して行きました。私はといえば、出番の前にはひっかけて、出番が終わればヤレヤレと茶碗酒の御相伴にあずかったり、本人は忘れていた、タクシで痴漢を追いかけた話を披露されて、唄の前なのに笑いが止まらなくなったりと、4度目の場價れの気分も手伝って、楽しい時間を過ごしました。

番組も休憩後から、難易度の高さ・尺の長さが増し、それが共に邦楽の深さ・面白さが増長していくよう、道程の遠さを想う次第です。赤坂組は唄い込むためにも、三味線の稽古を始めようと、息巻いていらつしやいました。次のおさらい会には同期新入門組として、糸で合わせたのです。毎回の番組の中で、いつかは唄ってみたいと思う印象的な唄があります。今回は川辺さんが唄われた、「綱は上意と飛田さんの「青いガッ登」でした。いつもピツタリの選曲を師匠はされるものと、関心するのですが、このところソリを務めていらつしやる内藤さんの、いぶし銀のような唄と

### タイと私

西松布 咏

二月の深夜、パンコックのドンアング空港に着くと、いつものように私の中で時の流れが変わり、まるで幼子のように昔に戻ってしまう。日本を離れると言葉が通じないで感覚だけで物を見聞きしようとするからだろうか？

パンコックは、すでに慣れた場所である。湿気を帯びた熱気と、カツプンカー(有難う) サワデイカー(ごきげんよう) とまるでカラスがさえずっているよ

うにカーカーと叫ぶ響きが、潮騒のように耳をくすぐる。と同時に色々な食物のにおいや、甘美な花の香りが街のあちこちの屋台から流れてくる。人々は狭い道路に無造作に置かれた椅子に腰かけて、そこに我が家のように食事をしている。幼い頃の日本もそうだった。色んな売り声が町中にあふれ、窓も戸も大きく開けちゃぶ台を囲む家族が丸見えで、味噌汁の香りが漂い、夏になると路地に緑台を出して、うちわと共におしゃべりした

ものだった。パンコックは訪れるたびに少しずつ近代化され、巨大なビルが街を包み種々雑多な人々が行きかう国際都市になったが、庶民の生活は、つましくたくましく変わらない。変わることも、変わらないエネルギーを感じる。国民の九割以上が仏教徒で、各家庭はもろもろの車の中にも仏像を祭り、香りの花の中にも仏様がいて、ハンドルの横で踊っている。毎日朝八時と夕方五時には、どこからともなく国歌が流れ、人々は立ち止まり、王室に対してうや／＼しく起立をする。混沌の中の統制がいつもスムーズに行なわれるのも、パンコックの変わらない表情のひとつである。

時には車や人々をぬって、ゾウが街中をのし歩き、ツクツクという人力オートバイクが風を切って疾走する。この乗り物も、私にとってなつかしいスリルとサスペンスだ。乗る前に行き先を告げ値段交渉のシートに座り、ころげ落ちないように鉄棒をにぎりしめ、風と共に飛んでゆく風景を楽しむ。パンコック名物の洪瀟を今も覚悟していたが、昨年の十二月にスカイトレインが開通したせいか、だいぶ緩いしやうだ。早速カードを買って、おそろい乗ってみる。開札口には必ず係員が見張っていて、カードを入れたらすばやく出ないと入口がしまってしまう。次の人が入る

のを防ぐためだとか！食物も飲み物も持込み禁止。トイレもなく規則づくめのこの堅苦しさは、のんびりとしたタイには似つかわしくない官僚的な発想の乗り物だ。バス料金の四倍の高料金で、公共の電車なのにまるでグリーン車のように携帯電話を使うようなタイ人しか乗っていないのは、なんとも納得できない。結局貧乏人はやはり混んだバスに乗ることになってしまう。そんな新旧と混ぜた活気あふれる生活を離れた都心から車で三十分程の、ラジラウドカレッジを訪れた。このカレッジはラマダグ六世が創立した男子校で、附近にはラマダグ五世の宮殿だったりマンメイクパレスや、現国王の官殿がそびえ立っている閑静な別世界。ラマダグ六世は「アンナと王様」の主人公モンクット王の第一皇子ツウラロンコンの息子の一人。十年間英国に留学し、芸術や音楽を好みシェイクスピアの翻訳を、自ら演じたこともあったという。以前訪れた時世話になったタマサット大学のティット教授の縁で学長を紹介され、欧米の教授達と共に、課外授業に参加した。このカレッジは、全寮制で毎朝八時に全生徒、教師、学長が大講堂に集まり朝礼を行なう。まず選ばれた生徒が、歴代の国王がまつられている祭壇に線香を供え仏典を唱え、全員があとに続き唱和する。そんな儀式の後、歴史を教えているカニタ先生が私を紹介して下さる。アユタヤ時代と同じ頃、今から二百五十年前の日本音楽をこれから演奏していただきます。

早期の起きぬけ声ながら、歴史の重みが漂っている大講堂で、六百人の若い男子生徒のくい入るような瞳に圧倒される。目の中には、ラマダグ六世の像、すぐ横には学長の椅子が見える大舞台で。

演奏のあとチャイアナン学長が笑顔で「カチオン女史と同じようにあなたの音楽は、日本とタイを強く結んで下さり感謝します」と、御礼を述べて下さった。一九一〇年代のツウラロンコン国王は昭和天皇と親交があつて、王室が派遣した留学生のひとりとして、カチオン女史はお茶の水大学で教育を受け、帰国した後は日本文化をタイに伝えたと言われている。日本とタイの懸け橋となつたカチオン女史がデザインした東洋的な石のベンチが散在する庭を歩きながら、一瞬でも日・タイ親善が出来て嬉しく思った。翌日は、タイ国王の援助で出来たタイ唯一の文化センター、サイアムソサエティーで演奏をした。スクウニット通りに面した、落ち着いた趣味の調度品の並ぶ展示室に、欧米人とタイの知識人が五十人程度集った。前半は代表的な江戸音楽である「縁かいな」宵は待ちを唄った。後半では、モダンな唄「黒い肖像」を唄う。最前列に座っていたタイ在住のアメリカ人ジャーニーホピキンスは、エルビスプレスリーやジャムモリスの伝記を書いた人だけに、スチールギターのような音色を出したとたん、急に身体が踊り出しおかしかった。ニュアンスの会に着たタイドレスの仕立て屋のママさんもわざ／＼駆つけて下さり、楽しい演奏会となった。帰国して間もなく、アンナと王様」の映画を観た。史実と違うというところでタイでの撮影は禁止され、王様と教師アンナとの接点も映画のようにロマンチックなものではなかったと聞いた。しかしながら、映像で美しく描くダンスのシーンを観ているうちに、私の内なるパンコックがまるで幻覚だったかのようになり、鮮やかなカラーからモノクロへと記憶されてゆくような気がした。

# マイハート イン グラム

(想い出のグラム)

嘉本範男

一月二十三日開空から青い空とエメラルド・グリーン色の海そして白い砂浜を求めてグラム島へ飛び立った。距離は二、三キロ、飛行時間は約三時間。着陸の際の機内放送で、地上気温三十二度と発表があった。機上から見るグラム島は雲に覆れる海や島の景観はよく分らなかった。

グラム島はサイパン・テナン・ロタ島等と同じマリアナ諸島に属し一番南に位置する。南北五十キロ、東西五十キロ、面積は十五万平方メートル。島の西側はフィリピン海、東側は太平洋に面する。北緯十三度、十四度はパンコックと同じ緯度にある。

グラム島は一九二二年三月六日にポルトガルの探検家マゼランがスペイン国王の援助で世界一周の航海中に偶然に発見されたといわれる。その後一五六五年にスペインがマリアナ諸島の所有を宣言し、以降三百年に亘り支配したが、一八五九年のアメリカ・スペイン戦争でスペインが敗れ、アメリカに譲渡された。一九四一年太平洋戦争時に日本軍が一時占領したが、一九四四年に米軍が奪還し、その後アメリカ合衆国の自治州となり今日に至っている。

ホテルは昨年十月にオープンした会員制ホテルで島の中央部東海岸にあり、スペイン風の瀟灑な建物である。周りには海とジャングルで遠くに人家が見える自然の中にある。

翌二十四日は島の南部を行くジャングルハイキングツアーに参加した。最初はジャングルの中に造られたチャモ口庭園に案内された。グラム島の花はブルベリアやハイビスカス、ブルベリアやハイビスカスの花が美しい。またヤシの木、パンの木、パイヤ、マンゴ

オレンジ、アボガド等多くの植物が実をつけている。ガイドの話では花を摘み取ったり果実を取ることは罪にならない。それほど豊富であり生育が早いといふ。

このあと古代チャモロ人(マリアナ諸島の原住民を指す)が住んでいた鍾乳洞の探検やタロフオフォの遺物を検する。この洞の入口に日本兵横井英雄が隠れ住んでいた洞穴の案内があり、横井ケープと呼ばれている。一九七二年一月二十四日発見されたところから丁度二十八年前の今日である。終戦から二十七年も生存出来たのは、近くに川があり飲み水に困らなかつた事、魚が取れた事、豊かな自然の果実があった事など極めて環境に恵まれていたとガイドの説明があった。

二十五日は島の中央部の西海岸にある観光の中心地とタモン湾のビーチに出かけた。グラム島にはDFS(免税店)と称する店が数多くあり各ホテルからタクシーが無料などの店も無税だから観光客にも好まれる。タモン湾のビーチは白い砂浜が一軒以上も続いており美しい。俄雨のあと虹が水平線にかかった。海岸通りは高層ホテル街となつてゐる。

夕方宿泊中のホテルの側の海に入る。この地域は遠浅の岩礁地帯で泳ぐには適していない。泳ぎ易い所を捜して海中を歩いていた時に、右足裏に刃物が当たったような感じがした。すぐ岸に上り見ると足の裏の傷が押えていたが痛みが増し痺が加わっている。この程度の傷で何故こんなに痛く歩けないのかわからない。ホテル

のフロントに相談すると支配人が酢を茶碗に入れ、布切れと共に持参し傷口に当てるといふ。しばらく布切れに酢をつけて繰り返して置いたが痛みは取れず腫れがひどくなつたのでホテルの車で病院に案内してもらつた。病院に着くと車椅子が用意され、緊急患者の扱いで医者に見ってもらつた。

取りあはずの処置は酢を入れた洗面器に足を浸す事で一時間続けた。この病院は患者が来た。ここでこの種の患者を扱つたことが無いのでインターネットに専門医に聞いた。破傷風の予防注射と抗生物質の注射をし、薬を投与する。という。その医者は名刺ももつて、「アナタ酒飲ミマスか。私ハノーサケです。」と自己紹介する。名刺にジョセフ野崎とある。「今夜調子が悪クサレバ何時下サニ。今晩ホテルデ熱イ熱イ湯ニ一時間足ヲ浸シテ下サイ。アナタ、グラム初メテデスカ。オ、可哀想。オ可哀想。明日出カケラレナイカモシレナイカラ、本オオ貸シマシヨウカ。」と本人はアメリカ加州出身の七二才。成田經由で今日十三時グラムに帰島、十四から病院に勤務しているという。薬局での薬の注文から会計の精算時までアテンドしてもらい、また車まで見送りをしてくれた。時刻は既に二十時を廻つた。二時間以上も病院にいた。さて、ホテルに戻り浴室に椅子を持ち込みバスタブに熱い湯を入れ足を浸し始めたが丁度二十二時。そして時間が潰しに借りた本の頁を開いた。

本の題名は「地獄の虹」一九七八年毎日新聞社出版のノンフィクションものである。主人公は沖繩で生まれ貧困のあぐく少年時代に父の働くテニアン島に渡り、サイパン島の農業実業学校に在学中、太平洋戦争となり軍隊に自主的に参加し熾烈な戦いの中で奇跡的に生き延び収容される。この収容所の中で旧憲兵にだまされ、日本兵二人を殺し、死刑の判決を受け取監される。数年後ハワイに移され再裁判を受け無期懲役となる。服役中にキリスト教(アドベントスト)に入信し三十一才の時に釈放され、沖繩に戻り教会の牧師として活躍した新垣三郎(一九二六年生まれ)の美話である。

熱い湯を追加し乍ら頁を次から次へとめくりあつたと言つて零時半だ。二時間半足を熱湯に浸して置いたことになる。翌二十六日痛みは殆ど無いが腫れは引いていない。ビーチサンダルで跛を引きながら中心街に出かけ、全長百メートルの隊道式の水族館に入つたり、

タモン湾のビーチで海水浴をする。この日の夕刻全身に蕁麻疹が出て体が真赤になる。ホテルの支配人の運転で再び病院に行く。野崎医師が診断に当り血液検査等を行う。この日も二時間以上かかり、終わったのは二十時。他の医者は看護婦達は誰もいない。ドクターは私のために「オ折リラシマシヨウ」と主に祈りを捧げた。

二十七日は体の痒みは取れたが腫れは引かない。一日中ホテルに滞在しプールサイド等で過ごしていた。そこにホテルの支配人と女性従業員が様子を伺いに来て、今晚食後に伝統的な治療をしてあげるといふ。

チャモロ美人の彼女は、自宅からノニという木の葉(青色の小さな松かさの様なもの)を持参し、ホテルの厨房でそれを潰して椰子の実の殻に入れ、火に炙つて熱くし足に当てる処置をしてくれた。明日の朝もやりましようという事で二回手当を受けた。ノニは伝統的な万葉薬で

歌舞伎座、演舞場、国立の三座で幕を開けた。私は演舞場と助六由縁の江戸桜の夜の部を演じた。辰之助、新之助、菊十郎、雀右衛門、菊五郎、團十郎が脇に在り、斬新で意欲的な公演に注目したからである。

鳥居前はよく演じられる吉野山の入口にあたる話で、初音の鼓をめぐる源九郎狐と佐藤忠信の因果関係が重要な忠告の口だ。八十助の忠信は忠義一途だと親狐(実は鼓)を慕う優しさで健気さとを、程々に心持

## 新春初芝居を見て

宍倉育三

よく表現した演技が良い感じだった。辰の助は立ち役でない方が良いと思うのだが、義経は綺麗に立派に演じていた。狂言舞踊の代表作の身替座禪は何度繰り返されても息のぬけぬけ面白さがある。菊五郎の大名の愛敬のある美しさは当代一品で、田の助も好演したが、松助は稍々堅すぎた。常盤津と長明の掛け合いもこの劇を盛り上げる重要な演出だが、常盤津にくらべて豪華な長唄の意気の上らないのは落胆した。何時もながら歌舞伎座の長唄はもう少しくうにかからないものだろうか。大切なのは助六由縁江戸桜、新之助が家の芸である助六に

ジュースにした飲み薬もあり、グラムの医者、ホテルの従業員の素晴らしい親切に感謝、感激し二十八日午後サンダルの光時間は制約されたが、私はエメラルド・グリーンに光り輝く毒を見た。何の毒にやられたか定かでないが、症状から現地の人はSTONE FISH(かさご系の魚?)ではないかといふ。当地の生き物で無うにやジョオグラフラーという貝が強い毒や麻痺物を持つていることを帰国後知つた。

余談になるが、帰国後も腫れが引かず病院に三度も通い治療に一月余もかかった。グラムでの病院はSEVENTH DAY ADVENTIST CHURCH、小説の主人公がADVENTIST教会の牧師となり、私が通院した東京衛生病院が東京ADVENTIST HOSPITALと私の珍事はADVENTISTIOUSに包まれていた想い出のグラムである。

初めていども、新春注目の舞台として期待を含ませて見物した。而も廻りは髪を左回次(最近意欲的になつた彼はさすがに貫禄があつた)、掲巻の雀右衛門、白玉の菊之助と手堅い名優で固めた。そしてなんと團十郎がくわんべら門兵衛で新之助の引き立て役にまわり賑が熱くなる程の熱演と口上で締めた。叔新之助であるが、流石は若さで威勢がいい、江戸のプレーボーイぶりを、切れて見せるのが若さにピッタリだ、芸は無論荒削りだが、原作の筋は離れて様式美の活の良さは助六そのものである。親の團十郎より先代の十一代目に似てスッキリしているの事妙で、次代の團十郎に期待することは大きい。こうして大歌舞伎は将来の夢を膨ませて新春の開幕を飾つた。

初めでいども、新春注目の舞台として期待を含ませて見物した。而も廻りは髪を左回次(最近意欲的になつた彼はさすがに貫禄があつた)、掲巻の雀右衛門、白玉の菊之助と手堅い名優で固めた。そしてなんと團十郎がくわんべら門兵衛で新之助の引き立て役にまわり賑が熱くなる程の熱演と口上で締めた。叔新之助であるが、流石は若さで威勢がいい、江戸のプレーボーイぶりを、切れて見せるのが若さにピッタリだ、芸は無論荒削りだが、原作の筋は離れて様式美の活の良さは助六そのものである。親の團十郎より先代の十一代目に似てスッキリしているの事妙で、次代の團十郎に期待することは大きい。こうして大歌舞伎は将来の夢を膨ませて新春の開幕を飾つた。

初めでいども、新春注目の舞台として期待を含ませて見物した。而も廻りは髪を左回次(最近意欲的になつた彼はさすがに貫禄があつた)、掲巻の雀右衛門、白玉の菊之助と手堅い名優で固めた。そしてなんと團十郎がくわんべら門兵衛で新之助の引き立て役にまわり賑が熱くなる程の熱演と口上で締めた。叔新之助であるが、流石は若さで威勢がいい、江戸のプレーボーイぶりを、切れて見せるのが若さにピッタリだ、芸は無論荒削りだが、原作の筋は離れて様式美の活の良さは助六そのものである。親の團十郎より先代の十一代目に似てスッキリしているの事妙で、次代の團十郎に期待することは大きい。こうして大歌舞伎は将来の夢を膨ませて新春の開幕を飾つた。

初めでいども、新春注目の舞台として期待を含ませて見物した。而も廻りは髪を左回次(最近意欲的になつた彼はさすがに貫禄があつた)、掲巻の雀右衛門、白玉の菊之助と手堅い名優で固めた。そしてなんと團十郎がくわんべら門兵衛で新之助の引き立て役にまわり賑が熱くなる程の熱演と口上で締めた。叔新之助であるが、流石は若さで威勢がいい、江戸のプレーボーイぶりを、切れて見せるのが若さにピッタリだ、芸は無論荒削りだが、原作の筋は離れて様式美の活の良さは助六そのものである。親の團十郎より先代の十一代目に似てスッキリしているの事妙で、次代の團十郎に期待することは大きい。こうして大歌舞伎は将来の夢を膨ませて新春の開幕を飾つた。

初めでいども、新春注目の舞台として期待を含ませて見物した。而も廻りは髪を左回次(最近意欲的になつた彼はさすがに貫禄があつた)、掲巻の雀右衛門、白玉の菊之助と手堅い名優で固めた。そしてなんと團十郎がくわんべら門兵衛で新之助の引き立て役にまわり賑が熱くなる程の熱演と口上で締めた。叔新之助であるが、流石は若さで威勢がいい、江戸のプレーボーイぶりを、切れて見せるのが若さにピッタリだ、芸は無論荒削りだが、原作の筋は離れて様式美の活の良さは助六そのものである。親の團十郎より先代の十一代目に似てスッキリしているの事妙で、次代の團十郎に期待することは大きい。こうして大歌舞伎は将来の夢を膨ませて新春の開幕を飾つた。